

花

センターだより

緑

2008・4
4号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

一本の樹から始まるまちづくり

兵庫県立大学教授 田原 直樹

●樹木の存在感

まちの緑のゆたかさと言うと、とかく一人当たり面積など量的な話になってしまいがちだが、緑の価値は量だけで測れるものではない。たった一枚の葉に人を癒す力がそなわっていることは、オー・ヘンリーの小説『最後の葉』に描かれている通りである。もとより緑を増やすことには大賛成だが、量では測れない面に目を向けることなしに真のゆたかさを実現することはできない。

一本の樹木が人に感動を与える。このことは、決して便利などころにあるとは言えない縄文杉を見るために、どれほど多くの人々が足を運んだかを考えればわかると思う。考えてみれば、ただ大きいというだけの樹木が、なぜこれほどまでにもてはやされるのか。こうした疑問は巨樹を目の当たりにすると雲散してしまう。圧倒的な存在感に打たれた経験をもつ人は少なくないのではないだろうか。

●地域のシンボルとしての路傍樹

戦前の地図に鍵のような形の見慣れぬ記号を見つけたことがある。凡例をみると独立樹とあった。なぜ一本の樹木がわざわざ地図に記載されているのか、その



ときは不審に思ったのだが、後で考えてみると、当時は高い建物が少なかったことに思い至った。きっと格好のランドマーク（目印）だったのである。樹木の存在は現在とは比べものにならないほど大きなものだった

に違いない。

そんな地図に載せてもいいような樹木が、今でも大阪の谷町筋にある。地元では「楠さん」と呼ばれており、注連縄（しめなわ）と樹下の小祠がご神木であることを物語る。高い建物が建ち並ぶ現代の都市にあっては、もはや遠くからでも見えるというわけにはいかないが、道路の真中に樹木が立つ様子は、そこだけ別世界のように異彩を放っている。調べてみると、大阪市内には、こうしたご神木が30本あまりあることがわかった。いずれも地域のシンボルとなるような樹木である。道路敷地に立っていることから「路傍樹」と呼ぶことにした。

●都市計画が路傍樹を生み出した

あきらかに交通の邪魔になっているはずの路傍樹が、なぜ切られないで存続してきたのか。「楠さん」の場合、かつてはお寺の敷地内にあった一本の樹木が、道路拡幅でお寺が移転することになったとき、道路予定地に取り残されたらしい。本来であれば切られるはずのものが、存続したのは近隣住民の運動であった。興味深いことに、路傍樹の多くは、もともとご神木だったわけではなく、街路事業などの結果として生まれたのである。都市計画が路傍樹を生み出したという見方もできるが、それはさておき、路傍樹は近隣のコミュニティによって守られているのである。

●一本の木が人びとを結びつける

しかし、見方を変えれば、路傍樹の存在がコミュニティの結束を高めることに寄与している、とも言える。人間よりずっと長く生きる樹木は、世代を超えた拠り所ともなり得る。武蔵野市では、百年後に「すべての小学校に巨樹がある」ことをめざしたという。巨樹を見ていると、一本の木から始まるまちづくりを夢想してしまう。緑のゆたかさとは、こうしたものではないだろうか。

これからの花と緑のまちづくりと園芸の進化 4

技術顧問 藤岡 作太郎

1. 園芸は生活文化と園芸文化の双方を担う

兵庫県が生んだ偉大な文化人により、日本における園芸とまちづくりに対する指標は提言されていると考えられる。まず哲学者・三木清氏は「生活と文化」論



三木 清(1897~1945)
龍野生まれの哲学者

の中で、私たちに与えられている自然への働きかけは、人間の創り出す文化であると述べている。更に先人達が築いた文化的な伝統に深く浸透することが大切で、現在私たちが取り組んでいる花と緑のまちづくり園芸はずばり当てはまる。これらの提言を要約すると①和魂洋才という言葉があるように、学ぶべき点は大いに学び取り入れるべき

だが、日本人の心で独自の生活の中に個性を生かしながら創造することで、単なる物まねではいけないとしている。②音楽、美術、文学などと同じでその技術は生活に溶け込まなければならない。③それらの努力により、より豊かな基盤は出来るが、達成するた

めにはロマン、愛がそそぎ込まなければならない。④そうして育むためには知識と訓練が大切であると結ん

でいる。1930年代の提言であるが、現代にずばり当てはまると信じられる。

次に私たちの園芸やまちづくりに取り組む上で、ぜひ認識しておかなければならないのは環境であるが、播磨が生んだ倫理学者和辻哲郎博士の「風



野バラ 小磯良平画
(小磯良平のすべてより)

土」は書店で得られるが、環境、風土文学の著名であって、園芸学の塚本洋太郎博士などは常に学ぶべき原板としている。さて、花の文化については塚本氏のほか松田修氏、そして赤穂市出身の文学者・西山松之助博士らのより日本と西洋の園芸文化の違いや共通点は詳しく述べられている。

私たちは生きる法典で六感(視、聴、臭、舌、身、心)は六根、六境として仏教で古くから調和をとる原点として、広く浸透してきているが、それらは相互に共感、共創される洋画の小磯良平面画、



小磯 良平(1903~1988)
画家・神戸モダニズムを色濃く反映した典雅な作風を確立

そして神戸に住み、若い時代に学んだことのある日本画の東山魁夷画伯には共通点が多い。まずふるさと兵庫県をこよなく愛していること、共にクラシック音楽のモーツァルトのファンであることである。いずれも回顧録や名書にも述べておられる。幸いにして筆者



東山 魁夷(1908~1999)
人間の郷愁たたえた風景画家

は県の文化課時代に所用で、小磯氏宅に寄せていただいたことがあり、今でも記憶しているのは、門を入るといつもモーツァルトの曲が流れていた。そうした音楽環境ですばらしく美しい女性画を画いてこられた。また東山氏は、ヨーロッパのすばらしい風景や町、日本の田園風景を生涯画き続けて、第二次世界大戦の動乱の中で苦勞し精進され



白井 鐵造(1900~1983)
宝塚歌劇団の演出家
宝塚調レビュウを確立

てこられた心は、すばらしい名画名作となって残されておられる。

また、宝塚歌劇団の演出家として有名な白井鐵造(1900～1983)は静岡県天竜市春野町の出身であるが、昭和の初期に師匠の岸田辰彌氏と共に宝塚歌劇団に入った。日本初のレビュー「モンパリ」を一人で振り付け、ラインダンスも初めて取り入れた。また、欧米に留学した後の作品「パリゼット」が大ヒットし、自ら作詞した「すみれの花咲く頃」は宝塚歌劇のテーマ曲になった。その後、百数十本を上演し、宝塚歌劇を確立されたのである。そして、宝塚市はすみれが縁で春野町とも姉妹提携され、内外に輪をひろげている。

こうした心身と視覚などで共創する姿勢は幾多の郷土が生み育んだ文化人の歩みを学び取りまた、少しでも近寄ることの大切さが理解できる。筆者もこのように示されている心と美の行動に努めてみたいと考えて、日本画に挑んでみたり、国内外を歩む中でモーツァルトやベートーベンなどのクラシック音楽に耳を傾けようとする日々を送っている。

恩師の塚本洋太郎博士との関わりはことのほか多く、県民会館のギャラリーで絵画の二人展をやったり、共に三宮のレコード店に行き名曲名盤を買いに行ったり、花を求めて旅の同行もしてきた。やはりモーツァルトファンであったし、良き感化を受けることができた。

クラシック音楽に登場する花



シューマンの歌曲にある
「ミルテの花」



モーツァルトの歌曲にある
「スマイレ」

2. 共創するために良き環境を見出し、人々との出会いが大切

幸いにして兵庫県は、いろいろな環境文化に恵まれている。自らの体験から異業種の方々との関わりで、園芸のための生活と芸術文化が期待できる。日本海から太平洋まで、風土に変化があり、古き時代の伝統により城下町、門前町、宿場町が大きくなり都市が出来て波止場まちも世界に誇る神戸市がある。私の知る限り、先進国でこれほど緑を背景にした港都は少ない。いずれにしても、第二次世界大戦の動乱後の日本はなぜか園芸だけではないが、洋風がなびき過ぎている。海外の先進国では、今や日本や中国原産の植物が、丈夫でより美しいと言うことで愛好されており、日本庭園や盆栽、いけ花も重宝がられているのである。

やはり日本の伝統と自然のすばらしさを見直す、今がチャンスと考える。

私の心を学ぶ基点は、神戸市兵庫区五宮町にあるしょうふくじ やまだ むもんろうし祥福寺の山田無文老師、そして京都の清水寺のおおにしりょう大西良けいろうし慶老師に親しく教を頂き、むそうこくし夢想国師が作庭した京都しょうでんじの正伝寺の庭があり、しゅうざんろうし秀山老師に親しくして頂いたことである。また神戸製鋼、松下電器産業、大丸などの経済界の大先輩に出会って教えて頂くなど、園芸をより強くするために他業界の人々からの指針が必要であり、人間の六感清浄の調和こそが素敵なまちづくりに反映されるものと信じる。生活と芸術文化に園芸がより浸透することを期待している。



＜プラハのカレル橋のほitori＞
筆者作

平成19年度 花緑いっぱい運動推進員研修会及びワークショップ報告

平成18年に開催された「のじぎく兵庫国体」及び「のじぎく兵庫大会」を契機として、全県花いっぱい運動が大きな盛り上がりを見せるなど、県下での花と緑に関する意識が高まっています。その盛り上がりを一過性のものとせず、花と緑のまちづくりを一層進めるため、花緑を使ったまちづくりの核となる人材である「花緑いっぱい運動推進員」と一般県民を対象とする「平成19年度花緑いっぱい運動推進員研修会及びワークショップ」を開催しました。

従来の花壇植栽は、種類が豊富で、色彩に富み、見栄えのする一年生草花を中心にした消費型の花壇が主流をなしていましたが、近年、地域の緑化活動を支えるボランティアの方々の高齢化と人員不足が進み、植え替えをはじめとする、日々の花壇管理が十分にできない状況になりつつあります。このような状況の中で、今後の緑化推進の方向は、いかにして花壇管理の労力を軽減し、かつ管理経費を少なくするかが大きな課題であると思われます。

そこで「ローコスト・ローメンテナンスをめざして」をテーマに掲げ、県下6か所で実施しました。

○淡路地域

開催日：平成19年7月10日(火)

場 所：県立淡路景観園芸学校

参加者：23人 その他関係者6人

講 師：能勢 健吉（主任景観園芸専門員）
澤田 佳宏（景観園芸専門員）

内 容：淡路の風土になじんだ淡路の自生植物を植えることの意味を考えながら、自生植物であるハマゴウ、ツルナを花壇に植え、スイカズラ、ノイバラをトレリスに這わせました。これらを補うものとして、園芸植物であるリュウノヒゲをトレリスの後ろに植えました。



○中播磨・西播磨地域

開催日：平成19年11月21日(水)

場 所：市川文化センター、川辺小学校

参加者：35人 その他関係者9人

講 師：岡井 久夫（ひょうごガーデンマイスター※）

内 容：小学校の校庭の中でも、公道沿いの一番人の目につく場所の花壇をデザインし、植栽しました。宿根草のサルビアレウカンサ、チェリーセージ、リピアに、春の花チューリップ、ビオラ、パンジーをうまく組み合わせた花壇ができました。



※「ガーデンマイスター」は登録商標です。

○神戸・阪神南地域

開催日：平成19年11月27日(火)

場 所：県立西武庫公園

参加者：39人 その他関係者9人

講 師：加賀 文代(ひょうごガーデンマイスター※)

内 容：25種類の植物を使い、年間をとおしてどのような植物が活躍するか計算されたガーデンの作り方を学びました。バラ、ラベンダー、ツゲ、宿根草、チューリップ、パンジーなどをうまく使い1年中楽しめる花壇を作りました。



○但馬地域

開催日：平成19年11月29日(木)

場 所：関宮エイドホール

参加者：30人 その他関係者8人

講 師：井上 裕美子(ひょうごガーデンマイスター※)

内 容：河川沿いの公園の一角にドウダンツツジ、オタフクナンテンなどの低木の他、メキシコマンネングサ、フッキソウ、キチジョウソウ、シバザクラなど宿根草を主体とした花壇を作りました。意見交換では、但馬の海岸地域での花壇づくりに適する植物が話題になり、ハマナス、ユウスゲなどの自生種の活用が提案されました。



○東播磨・北播磨地域

開催日：平成19年11月30日(金)

場 所：小野市うるおい交流館エクラ

参加者：50人 その他関係者13人

講 師：ジャルゲニエ 佳代子(ひょうごガーデンマイスター※)

内 容：植物を植えることの他に、植物以外の道具を使った花壇の見せ方について学びました。レンガを使い、購入したガマズミやイワナンテン、ニューサイランと共に、地元小野市花づくりグループから提供されたキンギョソウ、ビオラ、アリッサム、ストックなどをからませた花壇ができました。



○阪神北・丹波地域

開催日：平成19年12月4日(火)

場 所：県立有馬富士公園

参加者：23人 その他関係者13人

講 師：岡井 久夫(ひょうごガーデンマイスター※)

内 容：針葉樹のブルーアイス、銅葉のヒューケラ、銀葉のシロタエギク、冬以外は元気なヒメツルソバを中心に、春を飾るビオラとチューリップをうまく組み合わせたガーデンの作り方を学びました。



クンシランの肥料のやり方

Q クンシランの花を毎年咲かせて美しく立派な葉を茂らせたいのですが、肥料のやり方はどのようにすればよいでしょうか。

A クンシランは生育が旺盛で、他の草花にくらべて肥料を好みます。

花が咲く2月から花後の6月まではもっとも生育が旺盛な時期なので、葉幅の広い新葉を数多く伸ばすようにします。

肥料は、油かすと骨粉などの固形の有機質肥料か緩効性化成肥料の置き肥を月に1回施します。または置き肥のかわりに液体肥料を10日に1回施すようにします。

7、8月は、花芽分化の時期となります。気温が高くなると置き肥は根を傷めることがあるので、中止して、液体肥料のみを施すようにします。

9月以降は涼しくなって根の動きも活発になりますが、気温がさがってくると休眠期に入ります。置き肥は根を傷めるので、9月に1回施すだけにし、液体肥料は9～11月に施します。冬は肥料を施さないようにします。

ストレプトカーパスの育て方のポイント

Q ストレプトカーパスを育ててみたいと思います。育て方のポイント、ふやし方などについて教えてください。

A ストレプトカーパスは、熱帯アフリカ原産のイワタバコ科の常緑多年草で非耐寒性です。

置き場所 春から秋はロゼット状になる品種は明るい日陰に置きますが、光の強い夏は40～50%の遮光をします。冬は室内で十分冬越しができます。やや低温に弱い有茎種は、暖かい部屋に置くようにします。

水やり 春から秋は、鉢土の表面が乾いたら与えます。夏は過湿にならないように注意します。冬は鉢土を乾かし気味にして、まめに霧吹きで葉に水をかけます。

肥料やり 液体肥料1000倍を月に2～3回施します。真夏は中止します。冬はロゼット性品種と単葉種は、2000倍に薄めて月に2回施します。

ふやし方 大株になったら根をほぐして傷めないようにハサミで株分けして、たとえばpH調整されたピートモス、バーミキュライト、日向土（小）を等量に混合した土に植えます。葉ざしも簡単で、葉片の葉柄に近い方をバーミキュライトにさしておくと、3～4週間後に芽がでできます。

●●● 季節の園芸相談 ●●● 相談員 福本 誠

ハイビスカスの剪定

Q ハイビスカスの枝が長く伸びて株全体の形が悪くなってしまいました。剪定はどのようにしたらよいでしょう。

A ハイビスカスは開花期間が非常に長いのが特徴で、5月から10月下旬まで次々と鮮やかな花を咲かせます。枝をよく伸ばして新しい枝に花をつけるので、草姿が乱れないように剪定します。

購入した鉢植えには、矮化剤（植物生長ホルモンの一種で、節間を短くして草丈を低く抑える草剤）を使用している場合があるので、矮化剤の効果が切れた株、矮化剤で処理していない株はよく伸びるので、4～5月に剪定します。

長年栽培した株で、古枝が多くなったり、長くなった株は、古枝をつけ根で切ります。1年枝は、基部3～5節を残して切り戻します。

初夏から夏にかけて残した節の葉腋からすぐに新しい芽がのびて葉をつけます。



ウメを加害するアブラムシ

Q 4月頃、白い粉に覆われたような小さな虫が新しい枝にびっしりついてしまいました。防除の方法について教えてください。

A アブラムシの加害によるものと思われます。ウメにはモモアカアブラムシを主に数種類みられ、それぞれ他の植物も加害します。冬越しは芽の付近の卵で行います。暖かい年には2月終わりから3月上旬頃にふ化して幼虫は蕾や芽について群生して吸汁します。葉が展開してくれば、葉の裏で増殖して葉は縮れて奇形になったりして、枝も伸びが悪くなります。また、成虫、幼虫の排泄液（甘露）が下葉にかかり、黒いカビが生えて「すす病」を発生して著しく美観を損ねます。

春先に新葉で無翅の胎生雌虫が単為生殖で増殖して、5月になると有翅の胎生雌虫が現れ、アブラナ科、ナス科などの中間寄主植物へ移動して繁殖した後、秋には再びウメに帰って、越冬卵を産みます。

防除は、被害は必ず出ると考えて予防的防除をします。初期防除に重点を置いて、3月下旬の発芽期に、スミチオン乳剤、マラソン乳剤を添付のラベル等で使用方法を確認して散布します。

花ごよみ

	花名	4月	5月	6月
フラワーセンター	チューリップ	●	●	
	アイスランドポピー	●	●	
	ワスレナグサ	●	●	
	サルビア		●	●
	マリーゴールド		●	●
西猪名公園	パチュニア			●
	ソメイヨシノ	●		
	シダレザクラ	●		
	オトメツバキ	●		
	ハナミズキ	●	●	
	サツキ		●	●
	ヘメロカリス			●
	クチナシ			●
有馬富士公園	シバザクラ	●	●	
	コバノミツバツツジ	●	●	
	ハナモモ	●	●	
	ヤマボウシ		●	●
			●	●
甲山森林公園	サトザクラ	●	●	
	コバノミツバツツジ	●	●	
	ミヤマキリシマ	●	●	
	マルバアオダモ	●	●	
	ザイフリボク	●	●	
	ウツギ		●	●
	クサイチゴ	●	●	
	ヒメハギ	●	●	
	キランソウ	●	●	
	オカラノオ			●
赤穂海浜公園	ハクモクレン	●		
	サクラ	●		
	キンシバイ		●	●
	ヒラドツツジ		●	●
	アジサイ			●
	ハナズオウ	●	●	
播磨中央公園	ツバキ	●	●	
	ベニバナスモモ	●		
	バラ		●	●
	カリステモン		●	●
	アジサイ			●
明石公園	サンシュユ	●		
	ソメイヨシノ	●		
	ユリノキ		●	●
	カラタネオガタマ		●	●



花と緑の行事ほか

県立都市公園、フラワーセンターでは、4月～6月にかけて、次の催しを計画しています。

4月		
フラワーセンター	チューリップ 450品種30万本の交響曲	3/1～5/6
	日本サクラ園芸品種	4/19～5/6
有馬富士公園	ロスカラブ「ハーブの歴史、お花染め」	4/10
	花と緑の教室「春の草花寄せ植え」	4/18
	植物、園芸療法、キッチンハーブ	4/24
赤穂海浜公園	花と緑の教室「春の草花寄せ植え」	4/9
播磨中央公園	さくらまつり	4/5～13
5月		
フラワーセンター	サラセニア展	5/10～6/1
	全日本臯月会さつき展	5/22～27
有馬富士公園	ロスカラブ「メテオカルラレスン、リース」	5/8
	花と緑の教室「ハンギングバスケット」	5/16
	ロスカラブ「ハーブガーデニングレッスン」	5/22
赤穂海浜公園	ハンギングバスケット寄せ植え	5/14
播磨中央公園	ばらまつり	5月下～6月上
6月		
フラワーセンター	コリウス展	6/1～30
	ガーデニングコンテスト	6/5～7/6
有馬富士公園	ロスカラブ「香りのメカニズム」	6/12
	花と緑の教室「食虫植物寄せ植え」	6/20
	ロスカラブ「ハハルコスメッスン」	6/26
赤穂海浜公園	食虫植物の寄せ植え	6/11

(※日程・内容については変更することがあります。)

花と緑のまちづくりセンターだより 4号

●平成20年4月1日(年4回発行)

●編集発行 財団法人兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター

〒673-0847 明石市明石公園1-27
TEL :078(918)2405
FAX :078(919)5186
Eメール: ifno_midori@hyogopark.com



～編集後記～

出会いと別れの春、新しい旅立ちの季節でもあります。今回は、県下で活動しておられる花緑いっぱい運動推進員の活動をご紹介しました。何か始めたい方のご参考になればと思います。

なお、センターだよりでは皆様のご意見・ご感想お待ちしておりますのでぜひ左記までご連絡下さい。

平成20年 4～6月 園芸教室のご案内

1講座だけでも受けられます。事前申し込み必要。受講料は1回100円。
 時間：記載のないものは13:30～15:30 日程・申し込み受付開始日は変更になることがあります。

●一般講座

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	4/6 日	明石公園の自然観察①：10:00～12:00 ・園内を散策し自然に親しむ。テーマ「早春の花・桜の花びらと葉」。	明石公園の自然に親しむ会	4/1
2	4/18 金	春の草花と夏花壇 ・最近人気のある春まき草花の種類・作り方、家庭での春・夏花壇作りについて解説	南波 英夫	4/1
3	4/20 日	春の草花の寄せ植え ※材料費別途2,000円 ・春を彩る草花の寄せ植え実習:10:00～12:00、13:30～15:30	フラワーセンター	4/1
4	4/25 金	春・夏野菜の作り方 ・春・夏野菜の作り方と年間作付け計画について解説	桐村 義孝	4/15
5	4/27 日	野草と遊ぼう!&展示会 ・明石公園の野草で伝承遊びをしながら植物に親しむ体験と展示をする。	松井 鴻	4/15
6	5/4 日	明石公園の自然観察②:10:00～12:00 ・園内を散策し自然に親しむ。テーマ「今しか見られない小さな花・新芽」。	明石公園の自然に親しむ会	4/15
7	5/16 金	洋ランの育て方 ・代表的な洋ランとミニ洋ランの育て方について解説	山田 益男	5/1
8	5/18 日	ハンギングバスケットを使った寄せ植え ※材料費別途2,000円 ・ハンギングバスケットの寄せ植え実習:10:00～12:00、13:30～15:30	フラワーセンター	5/1
9	6/1 日	明石公園の自然観察③:10:00～12:00 ・園内を散策しながら自然に親しむ。テーマ「初夏の花と実」。	明石公園の自然に親しむ会	5/15
10	6/8 日	食虫植物の寄せ植え ※材料費別途2,000円 ・珍しい食虫植物の寄せ植え実習:10:00～12:00、13:30～15:30	フラワーセンター	5/15
11	6/13 金	バラの剪定と開花後の手入れ ・バラを次々と咲かせるための手入れ法を実習を交えながら学ぶ	高田 正	6/1
12	6/20 日	ハーブの楽しみ方(人気品種1) ・人気のハーブ・薬草の作り方と利用法について解説	星川 雅子	6/1

●連続講座・基礎(全3回) ※全回受講で受付します。受講料は一括600円。時間：13:30～15:30

日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1 4/19 土	基礎①園芸病害虫防除と薬剤使用法 ・害虫・病気の見分け方と発生生態、および薬剤防除法と非薬剤防除法について解説	兵庫県造園建設業協会	4/1
2 5/17 土	基礎②栽培に役立つ植物生理 ・栽培に役に立つ植物生理について解説		
3 6/28 土	基礎③土と肥料 ・土の種類と配合法、また肥料要素の働きと使い方について解説		

●連続講座・実技(全4回のうち2回) ※全回受講で受付します。受講料は一括800円 時間：13:30～15:30

NO.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	5/25 日	実技①生け垣の管理 ・生け垣の刈り込みについて実習を交えて解説	兵庫県造園建設業協会	5/15
2	6/22 日	実技②庭木の剪定・整枝 ・時期別、開花タイプ別樹木の剪定・整枝法について実習を交えて解説		

●お申し込み先:

花と緑のまちづくりセンター (9:00～17:00)
 TEL:078(918)2405 FAX:078(919)5186
 Eメール: info_midori@hyogopark.com